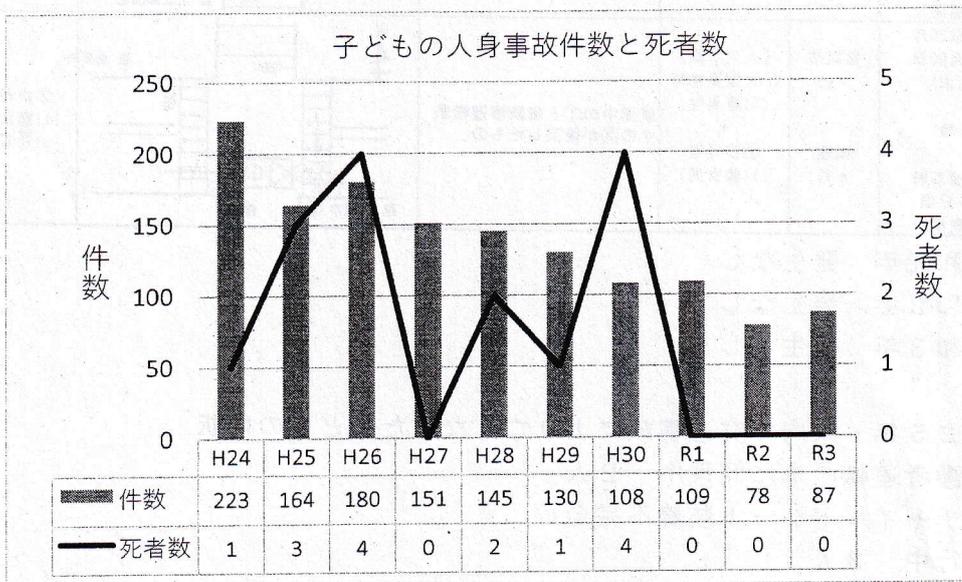


1 子どもの人身事故発生状況（岩手県内・過去10年）

	件数	傷者数	死者数	子どもの 県内人口
平成24年	223	249	1	162,319
平成25年	164	193	3	159,107
平成26年	180	212	4	155,629
平成27年	151	184	0	150,992
平成28年	145	160	2	147,370
平成29年	130	147	1	143,835
平成30年	108	117	4	140,134
令和元年	109	132	0	136,611
令和2年	78	88	0	132,811
令和3年	87	93	0	128,874

※ 人身事故

交通事故により、けが人（傷者）や亡くなった人（死者）が発生した事故



○ 傾向

過去10年の間に子どもの関係する人身事故は3分の1に減少しており、少子化の減少ペースを大幅に上回っています。

一方で、死者については、過去3年間0人に抑えているものの、増減を繰り返している状態となっており、平成30年には4人もの子供が亡くなっている状況です。

2 過去5年間（平成29年～令和3年）岩手県内における子どもの交通死亡事故概要

平成29年 1件

平成29年 4月4日 (火)  曇  午後4時 55分頃 昼間	遠野市 土淵町   国道 340号	【車両相互】 ①普通乗用車 (44歳女性) × ②普通乗用車 (78歳男性)	片側一車線の直線道路で①が対向車線にはみ出し、②に正面衝突した。道路直近で野焼きをしており、①はその煙をよけるため見とおしが悪い状態で対向車線にはみ出して走行した。		①の同乗者 (2歳女兒) 死亡	事故当時、チャイルドシートの装着が不適切であった
---	----------------------------------	---	--	--	-----------------------	--------------------------

平成30年 4件

平成30年 1月9日 (火)  雨  午後6時 15分頃 夜間	一関市 川崎町  国道 284号	【車両相互】 ①軽乗用車 (33歳女性) × ②軽貨物車 (24歳男性)	①が直進中、前方に停車中の②に追突したものの。		①の同乗者 (2歳男児) 死亡	事故当時、チャイルドシートの装着が不適切であった
平成30年 11月17日 (土)  曇  午前10時 45分頃 昼間	釜石市 唐丹町  市道	【人对車両】 ①普通乗用車 (29歳男性) × ②歩行者 (3歳男性)	①が②と衝突。		②歩行者 (3歳男性) 死亡	自宅前で死角にいた自分の子どもに気付かずに発進してしまったもの
平成30年 12月17日 (月)  晴  午後3時 28分頃 昼間	北上市 村崎野  国道 4号	【人对車両】 ①大型貨物車 (50歳女性) × ②歩行者 (8歳男児)	左折進行中の①と横断歩道横断中の②が衝突したものの。		②歩行者 (8歳男児) 死亡	①、②とも青信号の状態、男児には落ち度がない事故
平成30年 12月20日 (木)  晴  午後5時 5分頃 夜間	盛岡市 下田  国道 4号	【人对車両】 ①大型貨物車 (61歳男性) × ②歩行者 (11歳女児)	直進中の①と横断歩道横断中の②が衝突したものの。		②歩行者 (11歳女児) 死亡	②の女児は赤信号での横断

- 令和元年 発生なし
- 令和2年 発生なし
- 令和3年 発生なし

○ 過去5年・県内で交通事故により亡くなった子どもの内訳

保護者運転の車に同乗中 2人

(チャイルドシート装着不完全)

歩行中 3人

(青信号で横断中1人、赤信号で横断中1人、保護者運転車両の死角1人)

○ 傾向

同乗中の死亡事故では、チャイルドシートを正しく装着していないことが原因となっております。

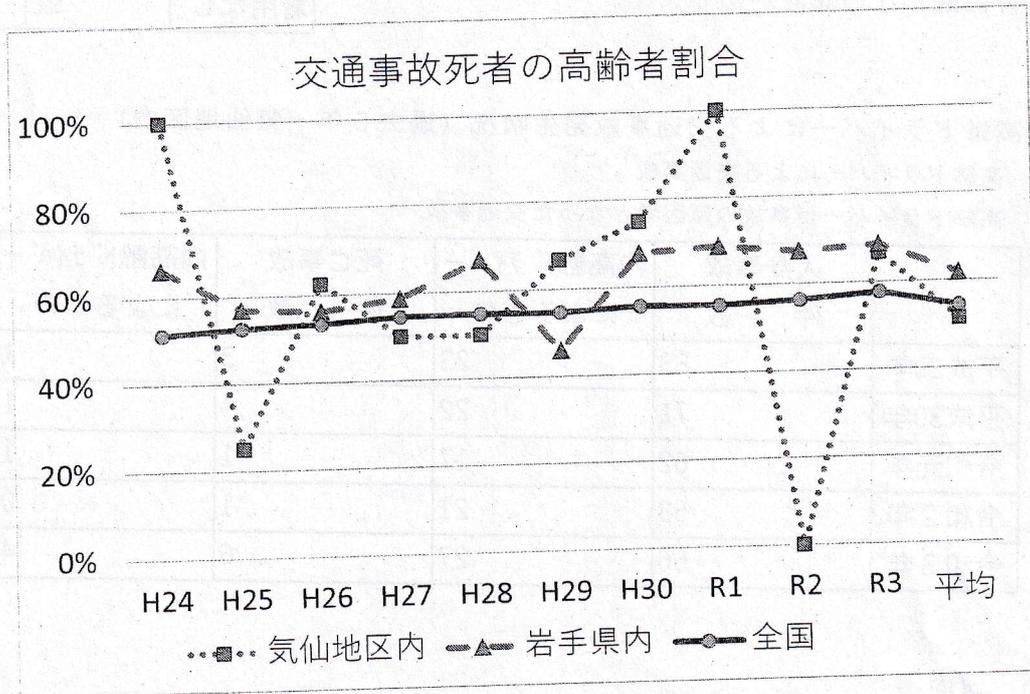
岩手県のチャイルドシート着用率は、55.4%であり全国平均の70.5%を大きく下回り、都道府県別でワースト2位となっています。(JAFによる令和元年6月の調査結果)

歩行中の死亡事故では、児童側に赤信号で横断しているといった過失のある事故もあり交通安全教育の必要が認められる事故がある一方で、児童に何の落ち度もない事故も発生しています。

また、自宅敷地内や自宅直近において保護者が死角にいる子どもに気付かずに引いてしまう死亡事故は、県内で数年に1件程度の頻度で発生しています。

3 気仙地区における高齢者の関係する交通事故発生状況（過去10年）

	気仙地区内			岩手県内			全国		
	死者数	内高齢者	占有率	死者数	内高齢者	占有率	死者数	内高齢者	占有率
平成24年	4	4	100%	83	55	66%	4438	2279	51%
平成25年	4	1	25%	72	41	57%	4388	2309	53%
平成26年	8	5	63%	64	36	56%	4113	2193	53%
平成27年	4	2	50%	80	47	59%	4117	2247	55%
平成28年	2	1	50%	73	49	67%	3904	2138	55%
平成29年	3	2	67%	61	28	46%	3694	2020	55%
平成30年	4	3	75%	59	40	68%	3532	1966	56%
令和元年	1	1	100%	45	31	69%	3215	1782	55%
令和2年	1	0	0%	46	31	67%	2839	1596	56%
令和3年	6	4	67%	35	24	69%	2636	1520	58%
合計	37	19	51%	618	382	62%	36876	20050	54%



○ 傾向

年によって高齢死者の割合は大きく異なるものの、平均すると県内平均、全国平均とほぼ同じ割合を占めている。

4 高齢死者の内訳（気仙地区内・過去5年）

過去5年（平成29年～令和3年）の高齢死者10人

- 普通車運転中 4人（事故の原因者として死亡）
- 普通車同乗中 1人（夫の運転する車に同乗中）
- 自転車運転中 1人（自転車の単独転倒事故）
- 歩行中 4人（夕暮れ時間帯または夜間の発生が多いが反射材用品等の着用はなし）

○ 傾向

自動車運転中の事故については、被害者の立場で死亡している事故はありません。いずれも、死亡した高齢者自身が原因者となっています。

歩行中死者については、明確な道路交通法違反はないものの、道路を横断する際に

- ・止まる
- ・見る
- ・待つ

という当たり前の行動ができていません。

夕暮れ時間帯または夜間の間に発生している歩行者事故については、亡くなった方は全て反射材用品やLEDライトなどを利用していませんでした。

過去5年間・県内の歩行者が関係する人身事故のうち、反射材用品等を着用していた方はごくわずかでした。

反射材をしっかりとつけている人ほど、事故の被害に遭わない傾向があります。

歩行者の事故当事者 反射材着用状況		
	死亡	負傷
着用あり	3	50
着用なし	92	1264

5 高齢ドライバーによる交通事故発生状況（過去5年・気仙地区内）

※ 高齢ドライバーによる交通事故

高齢ドライバーが事故の原因者となった交通事故

	人身事故 件数	内高齢ドライバー によるもの	死亡事故 件数	内高齢ドライバー によるもの
平成29年	83	23	3	1
平成30年	71	22	4	1
令和元年	62	17	1	1
令和2年	53	21	1	0
令和3年	56	27	6	4

○ 傾向

過去5年間において気仙地区内で発生した人身事故のうち、高齢ドライバーが原因者となっている事故は全体の4割近くを占めており、死亡事故も発生しています。

また、気仙地区で免許を持っている方のうち、約1割は75歳以上の後期高齢者であり、90歳代の免許所有者も約100人ほどおられます。

気仙地区、年齢別運転免許所有者（R2末時点）					
	30歳未満	30歳以上 65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上	合計
免許人口	4012	22871	8506	4543	39932
割合	10%	57%	21%	11%	100%

## 6 行っている主な対策

### (1) 子どもの事故防止対策

- 通学路でのパトロールや交通指導取締りの強化
- 交通指導隊や交通関係ボランティアの方々と連携した通学路の交通監視活動
- 幼稚園・保育園における保護者と園児を対象とした交通安全教室の開催
- 小学校・中学校での歩行中、自転車乗車中における交通安全教室の開催

### (2) 高齢者の事故防止対策

- 反射材着用促進の啓発活動
- 夕暮れ時間帯における高齢歩行者への声掛け
- 高齢者対象の交通安全教室の開催
- 高齢者宅の個別訪問による交通安全指導

### (3) 高齢ドライバーの事故防止対策

- 高齢ドライバー対象の交通安全教室の開催
- 交通事故を起こした高齢ドライバーへの個別指導
- 家族と連携した「運転卒業」に向けた働きかけ